



## 支援機器相談シート

相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程C(自立活動を主とした教育課程)に在籍しており、車椅子を使用している。車椅子を使用しているときに右側に倒れやすいため、姿勢が崩れないようにする工夫を知りたい。</li> <li>・タブレット端末やスイッチの活用方法。</li> <li>・発語が難しいが、言語の理解力はある。意思を表出する手だてはあるか。 (「挨拶して」「手を挙げて」など簡単な指示は理解できる。)</li> <li>・自分の力で作業がしやすい姿勢の作り方と、その介助方法を知りたい。</li> </ul>
相談結果	<p>○意思表示の方法について</p> <p><b>【生徒の現状と困り感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度他者の言っていることが理解できるものの、意思表示の手段に制限があるため、もどかしく感じているように思われる。</li> <li>・意思表示は、挙手、カードの選択、声など様々な方法が考えられるが、視線が定まらないため注視が難しい。また、腕の不随意運動があるため、声を出す方法が最も正確に本人の意思を反映できる。名前を呼ばれたり挨拶されたりした際に、「あー」と声を出して返事をする事ができる。</li> </ul> <p><b>【返答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かを選択させる場合は、選択肢を同時ではなく、一つずつ提示し、本人が選びたい場所で声を出させる方法を試してはどうか。</li> <li>・先生を呼ぶ際にスイッチを用いるなど、声を出すことをスイッチの操作に置き換えることで、大きな声を出さなくても意思表示ができるようになるのではないか。</li> </ul> <p>○姿勢について</p> <p><b>【生徒の現状と困り感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リラックスしているときは脱力しているが、活動が始まると身体が曲がったり反ったりしてしまう。</li> <li>・教材を使用する際は、机の奥側に設置すると見えないため、机の手前側に台を置き、その上にスイッチ等の教材を置くなど、視線の高さに合わせて教材を置くようにしている。</li> <li>・骨盤にねじれがあり、左ひざが少し前に出ている。しかし、去年から骨盤のあたりの骨が削れて一部欠損しているため、学校内の活動においては下半身を動かして姿勢を調整することが難しい。</li> </ul> <p><b>【返答】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に適した作業空間が、現在よりも狭く、手元の体に近い位置にあるのではないか。スイッチを押しやすい場所に設置するなど、教材の提示方法を工夫してはどうか。</li> <li>・活動の際にはタオルやネックピローなど、首に支えがあるとよい。(写真1)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首の位置がずれてきたときに、素早くに元に戻せるようになる。首のコルセットよりも、動きを制限し過ぎないような、やわらかい材質のものがよい。活動がやりやすくなるため、前は閉めないでおく。下から首を支えこむような装具もあるため、随時相談するとよい。</li> <li>・GUAPO フレキシブルネックピロー(写真2)のような、芯が入っていて、形が変えられるものがよい。</li> <li>・板をかませるなどして、座面を左側に少し傾けると、自然な体の反応を使って活動しやすい姿勢を維持しやすくなる。</li> </ul> <p>○スイッチと電子ベルについて</p> <p><b>【生徒の現状と困り感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スイッチどこ?」という指導者の呼びかけに対して、机上のスイッチを指先で押し、電子ベル</li> </ul>

を鳴らすことで答えられる（写真3）。



写真3

【返答】

- ・スイッチを操作する方の肘にタオルを敷くなどして、腕が引っ掛かりにくくするとよい。
- ・「電子ベルが鳴ることが楽しいのか」または「スイッチをカチカチと押すことが楽しいのか」どちらかを判別し、発達を見極める必要がある。
- ・意図ある発信ができるように、用事のあるときだけスイッチを押し（用事のないときは押さない）、電子ベルを鳴らして指導者を呼ぶようにする練習をするとよい。
- ・なかなかスイッチに触れられない場合でも、探索を試みている可能性があるため、手を出さずに待つのがよい。
- ・スイッチを長押しすることで動作する犬のおもちゃ等を使用して、スイッチと動作の関係性を理解できるようにする。（写真4）



写真4

- ・初めはおもちゃを用いてスイッチを使う練習をし、次の段階として、電子ベルを鳴らして指導者を呼ぶ（指導者が来るまで待つ）ことができるようにしていくのがよい。
- ・首を支えて頸反射を軽減することで、腕の不随意運動をコントロールしやすくなる。注視までは難しいが、スイッチと手の位置関係を目で捉えられるようになることで、認知の仕方も変わってくる。